

かべ新聞

第 98 号

2016 年
1 月 9 日

J R 東海労働組合
新幹線地方本部
東京車両所分会

**昨年 7 月 仕業検査体制を変更し、
その後、8 月 3 日及び 11 月 2 日に再見直し
を行ったが、まだまだ問題が！**

2015.12.25 地本は、申 11 号として幹鉄事に申し入れ！

仕業検査体制見直し後の問題に関する申し入れ

7 月の仕業検査体制変更から 6 ヶ月経過したが、この間、8 月 3 日付けおよび 11 月 2 日付けで、それぞれ仕業検査体制の再見直しを行ってきた。このことにも明らかなように、現在の仕業検査体制は問題点が多く発生しており、早急な改善が必要である。よって以下について申し入れるので、早急に協議の場を設定し、誠意をもって回答すること。

記

1. 仕業検査は一本 50 分の作業時間内に間に合わない時が多く発生している。入換計画表（ウナギ）でとっている一本あたりの作業時分は 6 月以前と変わらず、概ね 60 分から 90 分しかとっておらないため、仕業検査が遅れて入換変更が多く発生している。また、アリス入力を後回しにして次の仕業検査に向かうことも発生している。
さらに、作業の遅れのために番線が変更になり作業がき電停止前の通電中に終わらず、送電開始後に引き続き作業になりことも多く、作業ミスを誘発する恐れがあり安全上問題である。入換計画表の一本あたりの在線時間（10 分）を伸ばすこと。
2. SEK が仕業で使う物品は、その多くを申告班の修 AB 担当者が用意している。仕業検査内に作業を終えるには、SEK 作業者本人が 3F 倉庫に物品を取りに行っている余裕はないためである。このような状況に対する会社の認識について明らかにすること。
3. JR と SEK の共同作業の可否について会社は明確に説明をしていない。例えば便所故障時に「JR と SEK に共同で見に行ってくれ」という管理者もいる。このような状況に対する会社の考え方について明らかにすること。また、明確な説明をすること。
4. JR 管理者が立ち会う作業の中に、SEK が請け負っている作業がある。例えば、軸箱給油作業は SEK となっているが、給油作業は管理者立ち会い作業であり、後検査は JR である。このように共同作業ともいえる曖昧な作業分担を見直すこと。
5. 座布団の扱いは現在 JR が管理しているが、SMT に管理させること。

6. 外勤への断路器投入要請が①号車側から行われているが、このとき、⑩号車側でのテレスピ扱いの状況が分からないため、外勤が操作盤を操作中にテレスピの呼び出し音が鳴り続けることがある。これにより、外勤は、通話中の声が聞き取りにくくそれにより操作盤の操作に集中できず、思わぬミスを誘発されかねない。よって、どこかのテレスピが使用中の場合、他の全てのテレスピに使用中表示ランプが点灯するように改善する事。
7. 乗継通告券の確認・打ち合わせはJR二名だけで行っているが、SEKも独自に乗継通告券の記載内容を確認し対処するように見直すこと。
8. 仕業検査が連続して、3時間や4時間も連続で歩きっぱなしということもあり、体力的に負担が大きく、疲労による集中力低下と、足元がふらつき、つまずくことも多くある。よって、仕業検査班を第一、第二とも1班増やすこと。
9. SEK作業の中で、座席修繕など一人では容易に出来ないものがあるため、SEKに修繕対応の担当者を一名配置させること。
10. SEKは検査業務も請け負ったことにより、作業量と責任が増加した。これに対する手当を増設できるように、JRからの契約単価を上げること。
11. 仕業検査が終了してもSEK作業が終了しないとドア扱い出来ないため待つことになる。これでは業務の独立性が確保できないため、改善すること。
12. データ分析センター担当者にも機器の読み出し作業を行わせること。また、それが可能となるように増員する事。
13. 作業指示の方法は、アリス指示と紙指示があるが、処置後の整理についてはJRが行っている。また、アリス入力で、スリ板取替は以前と同じく作業者はSEK、後確認者はJRとして入力している。また、蛍光灯取替などは作業者、確認者ともSEKとして入力している。このような状況は業務の独立性の観点から改善すべきだと認識するが、会社の考え方について明らかにすること。
14. 発注者（JR）と受注者（SEK）の作業区分と責任区分を明確にし、混乱なく安全で快適な作業を容易にするために、以下について要求する。
 - (1) 屋根上作業はJRのみで行うこと。
 - (2) 室内作業はSEKの完全責任施工とし、JRによる後確認、後検査は不要とすること。
 - (3) 下回り作業はJRのみで行うこと。
 - (4) 要員需給等の問題がある場合はSEKからの出向受けをすること。